

ドイツスポーツ少年団

8人が
門川町へ

書道、柔道などで交流

青少年の国際交流を目的にした日独スポーツ少年団同時交流事業のドイツ団8人が、7月29日から門川町を訪問してい



道着姿で柔道の受け身を体験するドイツ団の男女(7月30日)

る。あすまで町内や日向市に滞在し、交流を深める。相互交流でより友好と親善を深め、国際的 capability を高めてもらおうと、日

本スポーツ少年団が1974年から日本各地で継続しており今年で46回目。

訪問したのはドイツでダンス、スキー、モーターバイク、一輪車、弓道、バドミントン、トランポリンに取り組んでいる16〜22歳の男女。門川町スポーツ少年団本部(山倉隆登本部長)を主体に、日向市スポーツ少年団本部(日高博之本部長)も一部受け入れた。

7月30日の午前中は門川町役場を訪れ、山倉本部長の妻で町内で指導する山倉照子さんを講師に迎え、書道に挑戦。午後からは同町武道館で、少林寺流錬心館空手道草川支部長として指導する山倉本部長から空手、門川柔道スポーツ少年団の金丸陽次郎団長から柔道の指導を受けた。

このうち、柔道では体

を守る受け身を中心にゲーム感覚で学んだほか、「一本背負い」ともえ投げ」など投げ技の実戦を見学。同草川支部や同スポーツ少年団の子どもたちと一緒に、簡単な投げ技にも挑戦するなどして日本の武道に触れた。

バドミントンとスキーが専門のマーク・ローディックさん(16)は「初めて体験したけど、かっこ良くとても楽しかった。ドイツでもできることがあるれば、また挑戦してみたい」と話した。この日はホームステイ

先に宿泊して日本の暮らしも体感。翌31日は日向市お倉ヶ浜海岸でサーフィンを楽しんだほか、国の伝統的建造物群保存地区に指定されている同市美々津の町並みを散策した。

2019. 8. 1